

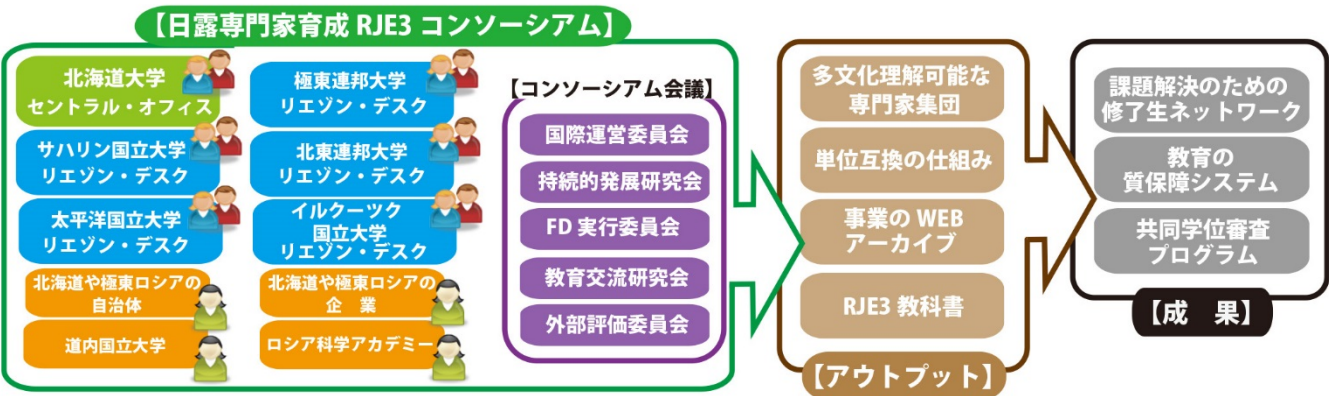
1. 構想の概要

【構想の名称】(選定年度26年度・主たる交流先(ロシア))

極東・北極圏の持続可能な環境・文化・開発を牽引する専門家育成プログラム(RJE3プログラム)

【構想の概要】

極東・北極圏を対象として、北海道大学とロシアの大学間において蓄積された環境、自然災害、民族・言語・文化等のフィールド共同研究実績およびネットワークに基づき、極東ロシアの基幹5大学と本学複数大学院、北海道や極東ロシアの自治体、産業界の代表などで構成される日露専門家育成コンソーシアム(RJE3コンソーシアム)を構築し、極東・北極圏の持続可能な環境・文化・開発を牽引する専門家集団を育成する取組である。



【交流プログラムの概要】

RJE3プログラムでは、現場のフィールド実習を重視し、教育カリキュラムの4段階において、「環境評価」「文化的多様性」「土壌と生産」「地域資源開発」「防災管理」の分野横断的なグループワークをおこなう機会を設ける。

- 「準備科目」: 母校において、日露の文化や歴史への理解を深め、サバイバル言語を修得する。
- 「基礎科目」: RJE3参加学生が北海道に一堂に会し分野横断的な講義を受講した後、テーマ別の専門的なフィールド実習をおこない、基礎力強化を図る。
- 「専門科目」: 日露の学生が専門を深めるため留学し、母校での学びを補完する科目を受講して単位を取得する。
- 「発展科目」: これまでの教育カリキュラムで得た知識や技能を自治体・企業へのインターシップや学位論文等の論文執筆で実践する。

日露大学間における厳格な単位認定や2種類の修了証(「基礎科目修了証」と「RJE3共同修了証」)の授与など教育の質の保証システムを確立し、将来的には共同学位審査プログラムの実現を目指す。またRJE3コンソーシアム内で立ち上げる「持続的発展研究会」を通じてRJE3同窓生が持続的に集う機会を設けることで、受講者はコース実施中に育まれたネットワークを生涯にわたり維持し、政治・経済・学術・技術など多くの協働機会を通じて互いに関係性を深めることができる。

【本構想で養成する人材像】

極東・北極圏の環境と歴史文化の多様性を熟知し、分野横断的な領域で高度職業人として活躍する専門家であり、分野横断チームの一員として貢献する上で不可欠な「多文化理解力」「コミュニケーション力」「企画・創造力」「リーダーシップ力」の4つの力を備えた人物を養成する。

【本構想の特徴】

本構想の特徴は、分野横断性にあり、各大学から「環境科学」「工学」「文学」「農学」「理学」をはじめ複数部局が参加するため、本学には理事・副学長が管理する国際本部内に「セントラル・オフィス」を、ロシア各校でも国際担当副学長などが管轄する「リエゾン・デスク」を設置し、組織的かつ機動的な教育連携を実現する点にある。

【交流予定人数】

	H26	H27	H28	H29	H30
学生の派遣	10	25	25	25	25
学生の受入	25	25	25	25	25

2. 取組内容の進捗状況(平成26年度)

【北海道大学】

【構想の名称】(選定年度26年度・主たる交流先(ロシア))

極東・北極圏の持続可能な環境・文化・開発を牽引する専門家育成プログラム

交流プログラムの実施状況



〈 準備科目における日露教員・学生の集合写真 〉



〈 基礎科目(試行)における講義の様子 〉

1、ロシア連携大学における日本人学生の短期研修の実施(2015年2月)
太平洋国立大学とサハリン国立大学に学生を派遣し、2週間程度の研修を実施した。ロシア側の学生・教員との学術的交流を持つことで次年度以降の長期派遣への感触をつかむことができた。

2、次年度実施予定の準備科目の開講(2015年3月)
イルクーツク国立大学で、日本側教員3名による準備科目を2日間開講した。ロシア側学生が日本の文化や歴史を事前に知ることができ、次のステップとして位置づけられている基礎科目(試行)をスムーズに受講することができた。

3、北海道大学での基礎科目(試行)の開講(2015年3月)
計47名の日露学生が本学に一堂に会し共同講義をおこなった。基礎科目を試行的に5日間開講したことにより、日露の学生と教員が、極東・北極圏地域の重要課題を真摯に語り合うことができた。講義は、「環境評価」「文化的多様性」「土壌と生産」「地域資源開発」「防災管理」の5領域について日露の教員が共同で担当した。講義最終日に各講義で学んだことを発表する機会を設けることで、学生が自身の成長度を認識できかつ教員が学生の理解度を知ることができた。

交流プログラムにおける学生のモビリティ

○ 日本人学生の派遣

2月実施の学生短期研修において、ロシア連携大学2校に計5名の日本人学生を派遣した。

○ 外国人留学生の受入

3月実施の基礎科目(試行)において、北海道大学にロシア連携大学5校から計35名のロシア側学生を受入れた。

	H26	
	計画	実績
学生の派遣	10	5
学生の受入	25	35

質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

1、国際運営委員会とキックオフ・シンポジウムの開催(2014年12月)

国際運営委員会では、教育カリキュラムの基本構成などを再度確認し、日露の学生・教員が本プログラムを実際に運用できるまでRJE3コンソーシアムの組織体制を調整した。また会議の翌日におこなったキックオフ・シンポジウムでは、本プログラムにおける教育プログラムの開発から導かれる日露関係構築への期待などが議論された。

2、日露共同FDと学生アンケートの実施(2015年3月)

基礎科目(試行)終了後におこなったFDでは、今後の基礎科目の講義進行・内容や講義での学生の反応について意見交換をおこない、日露間で有効な教育プログラムの構築を目指すことを確認した。更には各講義終了後に計5回のアンケート調査を学生に対し実施したことで、次年度以降の基礎科目の充実を図るためのデータを収集できた。

外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備

セントラル・オフィススタッフの就任とリエゾン・デスクの設置(2014年12月～2015年1月)

本学のセントラル・オフィススタッフとして3名就任したことにより、日露学生の派遣・受入、教育カリキュラムの運営、プログラム関連の各種行事や周知活動、学生の募集やサポートといったプログラム全体の諸作業を一手にこなす組織ができた。また、ロシア5大学にリエゾン・デスクを設置したことにより、セントラル・オフィスとの円滑な連絡体制が構築された。

構想の実施に伴う大学の国際化の状況

情報の公開、成果の普及

1、「北海道大学創基150年に向けた近未来戦略」における北極圏プラン

本構想は、平成26年度策定した大学改革の設計図「近未来戦略150」における、国際的教育連携、産官学連携による社会貢献、事務の国際化を、本学の重点地域である北極圏で実現させる重要な計画として位置づけられている。

2、webサイト・facebookの開設、パンフレット・ロゴマークの作成(2015年2月)

各種の情報発信媒体により、本プログラムを日露の学生・教員に周知させ、受講生の幅広い募集活動へとつなげることができた。webサイト(<https://rje3.oia.hokudai.ac.jp>)には参加学生の体験談を投稿し、学生目線の活動情報もせた。



〈RJE3プログラムのロゴマーク〉

特記すべき事項等

平成27年度の取組としては、8月に「基礎科目」が本格的に開講され、9月からは単位取得を目的とした長期留学(「専門科目」の開講)が日露間でスタートする。年度末には、「RJE3共同修了証」を授与する予定である。

3. 取組内容の進捗状況(平成27年度)

【北海道大学】

【構想の名称】(選定年度26年度・主たる交流先(ロシア))
極東・北極圏の持続可能な環境・文化・開発を牽引する専門家育成プログラム(RJE3プログラム)

■ 交流プログラムの実施状況

日露学生の派遣受入を伴う4段階の教育カリキュラムの開講・整備を実施した。

1. 準備科目の開講

【日本学生の短期派遣】(2016年2～3月)
ロシアを知るファーストステップとしてロシア連携大学3校に計17名の学生を派遣した。
【日本側教員によるロシア連携大学での講義実施】(2015年5～6月、9月)
ロシア連携大学5校すべてに日本側教員7名を派遣しロシア学生約500名に講義した。〈北大生派遣の準備科目(ヤクーツク)〉



2. 日露教員共働による基礎科目(概論・実習)の開講(2015年8月)

【分野横断的な講義形式の概論】
日露学生計42名が北大に集まり、歴史文化、自然環境、地域開発、政治経済をテーマとした日露共同の講義を6日間開講した。最終日には学生の成果発表も行った。
【ロシアと北海道で実施した選択型のフィールド実習】
ロシア・ヤクーツクで環境観察実習、北海道・礼文島で考古学人類学実習、札幌で寒冷地開発技術実習をそれぞれ7～10日間行い、日露学生計40名が参加した。



〈基礎科目・概論の日露学生の討議〉

3. 留学先で単位取得を行う専門科目の開講(2015年9月～)

日本側学生1名が9月からロシア連携大学で専門科目を受講し、日本で基礎科目を修了したロシア側学生9名が10月から専門科目を受講した。留学先で母校では得られない専門的な科目を履修して単位取得を行った。



〈基礎科目でのヤクーツク環境観察実習〉

4. 次年度開講を目指した発展科目の整備(2015年10月～)

教育カリキュラムでの整合性や科目登録を実施し、次年度開講できるよう整備した。

■ 交流プログラムにおける学生のモビリティ

○ 日本人学生の派遣

8月実施の基礎科目・実習において、ロシア連携大学1校に計9名を短期派遣、9月から実施の専門科目においてロシア連携大学1校に1名を長期派遣(2016年8月帰国)、2～3月実施の準備科目にロシア連携大学3校に計17名を短期派遣した。

	H27	
	計画	実績
学生の派遣	25	27
学生の受入	25	25

○ 外国人留学生の受入

8月実施の基礎科目において、ロシア連携大学5校から計25名を短期受入を実施した。25名のうち9名が、9月から本学特別聴講生として3大学院で受け入れ、2四半期間(6ヶ月)の専門科目の受講を開始した(2016年2～3月帰国)。



〈持続的発展研究会でのロシア学生の成果発表〉

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

教育の質を継続的に高め、当地域の発展に資するため、RJE3コンソーシアムに5つの会議を設置した。

1. 国際運営委員会(第2回開催2015年8月): 昨年度に引き続き、本学・ロシア連携大学5校でプログラム運営を議論した。
2. 教育交流研究会(2016年1月): ロシアと学術交流を持つ道内の国公立大学6校と情報・意見交換を行った。
3. 持続的発展研究会(2016年2月): RJE3同窓生が継続的に集い協力していく場として立ち上げ、日露の学生・教員、1自治体・3企業・1研究機関の計43名が参加した。
4. FD実行委員会(第2回開催2016年2月): 外部講師1名を招き、本学関係教職員等の24名が研修を受講した。
5. 外部評価委員会(2016年6月): 2016年3月に外部評価委員5名を内定し、2016年6月に開催した。

■ 外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備

セントラル・オフィスで危機対策マニュアルの作成(2015年8月)を行い、その後、全学の海外留学プログラムの危機対策マニュアルに組み込むことができた。

■ 構想の実施に伴う大学の国際化の状況

情報の公開、成果の普及

履修ガイドの作成とWebサイトでの公開(2016年3月～)、RJE3ニュースレターの作成(2015年10月～)を実施した。

■ 特記すべき事項等

2016年10月から「発展科目」の開講、年度末には「RJE3共同修了証」の授与を予定。

4. 取組内容の進捗状況(平成28年度)

【北海道大学】

【構想の名称】(選定年度26年度・主たる交流先(ロシア))

極東・北極圏の持続可能な環境・文化・開発を牽引する専門家育成プログラム(RJE3プログラム)

■ 交流プログラムの実施状況

日露の学生交流を伴う多層的な4つの教育カリキュラムすべてを開講した。

1. 準備科目の開講

【本学学生の短期派遣】(2017年2～3月)

ロシアを知るファーストステップとしてロシア側大学4校に17名の学生を派遣した。

【本学教員によるロシア側大学での講義実施】(2016年9月)

ロシア側大学2校に本学教員1名を派遣し、ロシア学生約300名に講義した。

2. 日露教員協働による基礎科目(概論・実習)の開講(2016年8月)

【分野横断的な講義形式の概論】

日露学生44名が北大に集まり、歴史文化、自然環境、地域開発、政治経済をテーマとし、日露等の教員17名が共同で5日間講義した。最終日には学生の成果発表も行った。

【ロシアと北海道で実施した選択型のフィールド実習】

ロシア・ヤクーツクの環境観察実習、北海道・礼文島の考古学人類学実習、札幌・札幌市周辺の寒冷地開発技術実習、そして本年度から新たに追加した知床半島・札幌の北方圏の文化と環境保全実習の計4科目を実施し、日露学生47名が参加した。

3. 留学先で単位取得を行う専門科目の開講(2016年6月～2017年3月)

本学学生5名がロシア側大学3校で専門科目を受講し、日本で基礎科目を修了したロシア側学生6名が北大で専門科目を受講した。留学先で母校では得られない専門的な科目を履修し単位取得を行った。

4. インターンシップや論文指導を目的とした発展科目の開講(2017年2月～3月)

本学学生1名がロシア側大学1校で発展科目を受講した。ロシア側教員から専門性の高い指導を受け、学生自身の学位論文作成に活かすことができた。

交流プログラムにおける学生のモビリティ

○ 日本人学生の派遣

基礎科目でロシア側大学1校に12名を短期派遣、専門科目でロシア側大学1校に2名を短期派遣、同じく専門科目でロシア側大学3校に3名を長期派遣、準備科目でロシア側大学4校に17名を短期派遣、発展科目でロシア側大学1校に1名を短期派遣した。

○ 外国人留学生の受入

基礎科目でロシア側大学5校から24名を短期受入れた。24名のうち6名を本学特別聴講学生として2大学院で受入れ、2四半期間(6ヶ月)の専門科目を受講した(2017年2～3月帰国)。

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

1. 外部評価委員会の開催(2016年6月)

大学・企業・自治体の外部評価委員5名がこれまでの取組を専門的・客観的な観点から評価した。

2. 第3回国際運営委員会の開催(2016年8月)

本学・ロシア連携大学5校の代表13名が本学に集まり、プログラム運営を検討した。

3. RJE3将来展開WGの立ち上げ(2016年10月)

補助金支援終了後の事業展開について学内で検討するWGを立ち上げ、これまで4回開催した。

4. 第2回持続的発展研究会の開催(2017年1月)

昨年度に引き続き、日露の学生、本学教職員、道内の企業・自治体・研究機関等の関係者28名が本学に集まり、極東・北極圏の持続的な発展にむけての研究会を開催した。

5. FDの開催(2017年3月)

戦略的な国際共同教育プログラムの運営について本学教員を講師として招き、本学教職員17名が受講した。

■ 外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備

日露の学生交流を伴う多層的な4つの教育カリキュラムを円滑に実施するため、昨年度に引き続き、本学設置のセントラル・オフィスとロシア側大学設置のリエゾン・デスクが密に連携し、プログラム運営に係る事務作業一般を遂行した。

■ 構想の実施に伴う大学の国際化の状況

情報の公開、成果の普及

これまでのWebサイトの内容を一新した(2017年3月)。また、平成29年度版の履修ガイドを作成した(2017年2月)。

■ 特記すべき事項等

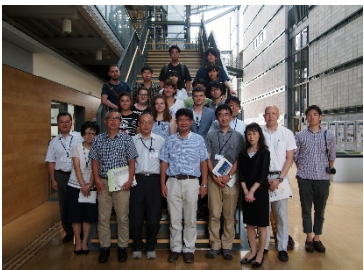
基礎科目においてロシア実施(イルクーツク市)のフィールド実習を新たに1科目追加する(6月開講予定)。



〈平成28年度基礎科目の日露受講生〉



〈礼文島国際フィールドスクール〉
礼文島・浜中2遺跡
基礎科目・実習



〈寒冷地開発技術ワークショップ〉
旭川市・北方建築総合研究所
基礎科目・実習

	H28	
	計画	実績
学生の派遣	25	35
学生の受入	25	24

5. 取組内容の進捗状況(平成29年度)

【北海道大学】

【構想の名称】(選定年度26年度・主たる交流先(ロシア))

極東・北極圏の持続可能な環境・文化・開発を牽引する専門家育成プログラム(RJE3プログラム)

■ 交流プログラムの実施状況

下記4段階の教育交流プログラムにおいて、ロシア側5大学から計23名、本学側学生は計46名が参加した。

【1. 準備科目】(平成30年2月)

大学院を目指す学部生向けの科目であり、極東連邦大学及び太平洋国立大学において実施され、本学学生計12名が参加した。学生は日露の一般的な知識を習得するとともに、国際フォーラムにおけるプレゼンテーションを行うなど留学ならではの経験を通じて、今後のロシア留学に対する興味関心を養うことができた。

【2. 基礎科目】(平成29年7月～9月)

概論(2単位)及び実習(2単位)の2科目で構成されており、概論は本学学生34名、ロシア人学生23名が本学に集まり、日露教員による極東・北極圏にある課題について、日替わりのテーマに基づき分野横断的な知識を習得した。実習は日本もしくはロシアで行われるテーマ別のフィールドワークであり、参加学生は、概論と合わせて履修することを通して、極東・北極圏の課題についての理解を深め、実践的な知見を習得し、社会で即戦力として活かせる基礎力を培った。

【3. 専門科目】(平成29年9月～2月)

基礎科目に参加したロシア人学生23名のうち9名が本学における専門科目に参加し、学生の専門分野における研究を深めることができ、本学から単位が付与された。

【4. 発展科目】(平成29年9月)

本学学生1名が発展科目に参加し、サハリン国立大学において研究内容についての調査を行うとともに論文指導を受けた。修了後は日露指導教員からの成績評価に基づき本学から単位が付与され、修士の学位が授与された。

■ 交流プログラムにおける学生のモビリティ

○ 日本人学生の派遣

基礎科目でロシア側大学2校に21名を短期派遣、専門科目でロシア側大学1校に1名を短期派遣、また準備科目ではロシア側大学2校に12名の学生を派遣した。

○ 外国人学生の受入

基礎科目でロシア側大学5校から23名を短期受入れた。23名のうち9名を本学特別聴講学生として2大学院で受入れ、第2四半期間(6ヶ月)の専門科目を受講した。

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

本プログラムにおいて、教育の質を継続的に高め、当該地域の発展に資するため設置された下記の会議を開催した。

1. 第4回国際運営委員会の開催(平成29年8月)

本学・ロシア連携大学5校の代表14名が本学に集まり、プログラム運営方針について討議するとともに、本プログラムにおける「発展科目」について、日露の単位制度を踏まえて実施期間等を整備した。

2. 第2回教育交流研究会の開催(平成30年2月)

北海道内のロシアと交流がある大学とそれぞれの交流内容について情報の共有をするとともに、学生交流実施にあたっての課題等を討議した。

3. FDの開催(平成30年3月)

「海外との共同教育プログラムの発展と持続について」と題して開催され、他の海外共同教育に携わる本学教職員とともに、プログラム運営について検討した。

4. 第3回持続的発展研究会の開催(平成30年3月)

外部講師を招き、ロシアとのネットワーク構築等について講義を受け、参加者と今後のプログラム継続と発展について意見交換を行った。

■ 外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備

本学設置のセントラル・オフィスとロシア側大学設置のリエゾン・デスクが協力し、日露学生の派遣受入に関する業務を行った。またロシア人学生の受入れについては、本学の受入先部局の教務担当とも連携を取り、長期の受入を行った。

■ 構想の実施に伴う大学の国際化の状況、情報の公開、成果の普及

本プログラムのWebサイト及びSNSにおいて、参加学生のレポートやイベントの様子を迅速に掲載し、新しい情報を公開した。また本年度の成果報告書の作成、翌年度の履修手引き、ニュースレターの作成を行った。

■ 特記すべき事項等

- ・本プログラムにおける4段階の教育プログラムを履修し、一定の基準を満たした日露学生8名に対し、共同修了証が授与された。
- ・平成29年9月にウラジオストクで開催された東方経済フォーラムにおける学生フォーラムに、RJE3の科目を受講した学生を1名派遣した。
- ・平成29年11月に日露青年交流センター及びロシア国際青年センター及び本学で共催の日露青年フォーラムにRJE3の科目を受講した学生を5名が参加した。

	H29	
	計画	実績
学生の派遣	25	34
学生の受入	25	23



(「基礎科目」ヤクーツク実習:永久凍土調査)



(「基礎科目」概論:日露学生による討議)



(RJE3共同修了証授与式)

6. 取組内容の進捗状況(平成30年度)

【北海道大学】

【構想の名称】(選定年度26年度・主たる交流先(ロシア))
極東・北極圏の持続可能な環境・文化・開発を牽引する専門家育成プログラム(RJE3プログラム)

■ 交流プログラムの実施状況

- 4段階の教育交流プログラムを実施し、ロシア側5大学から25名、本学から43名が参加した。
- 1. 学部生向け準備科目の実施 (平成31年2月)
極東連邦大学と太平洋国立大学に本学の学部生8名を派遣した。
 - 2. 日露教員協働による基礎科目(概論・実習)の実施(平成30年7月～9月)
【分野横断的な概論科目の実施】
日露学生60名が北大に集まり、日露の教員による5日間の共同講義を受講した。
【ロシアと北海道で実施したフィールド実習】
シベリア学実習、ヤクーツクの永久凍土実習、北海道・礼文島の考古学人類学実習、札幌圏の寒冷地開発技術実習、北海道の歴史文化実習の計5科目を実施した。
 - 3. 留学先での単位取得を伴う専門科目の実施(平成30年9月～平成31年2月)
基礎科目を修了したロシア側院生12名が、北大大学院で研究テーマに沿った科目を履修し、単位を取得した。
 - 4. インターンシップや論文指導を目的とした発展科目の実施(平成30年12月～平成31年2月)
専門科目を修了したロシア側院生4名が(株)キロロホテルズで3ヶ月間のインターンシップを実施した。

■ 交流プログラムにおける学生のモビリティ

- 日本人学生の派遣
基礎科目で大学院生17名、準備科目で学部生8名、**合計25名**の学生を派遣した。
- 外国人学生の受入
ロシア側大学5校から**合計25名**を短期(1ヶ月未満)間受入れた。
25名のうち12名は長期(更に6ヶ月間)受入れ、北大教員の指導を受けた。

	H30	
	計画	実績
学生の派遣	25	25
学生の受入	25	25

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

- 教育の質を継続的に高め、地域交流の発展に資するため以下の会議を実施した。
- 1. 第6回国際運営委員会の開催(平成30年8月)
本学・ロシア連携大学5校の代表11名が本学に集まり、プログラム運営を検討した。
 - 2. FDの開催(平成30年12月)
本学の他部署と協力し、外部講師を招いて「SDGs勉強会」を行った。
 - 3. 総括シンポジウムの開催(平成31年2月)
総括シンポジウムを本学にて開催し、ロシア側5大学より教員各1名と修了生各1名を北大に招聘し、修了後の研究・キャリアに与えた影響・成果発表を行った。
 - 4. 第3回持続的発展研究会の開催(平成31年2月)
本学関係者の外、北海道内自治体や企業と「今後の大学と企業の連携について」討議を行った。



(「基礎科目」ヤクーツク実習:永久凍土調査)



(「準備科目」日露学生による共同作品)

■ 外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備

日露の学生交流を伴う多層的な4つの教育カリキュラムを円滑に実施するため、昨年度に引き続き、本学設置のセントラル・オフィスとロシア側大学設置のリエゾン・デスクが密に連携し、プログラム運営に係る事務作業一般を遂行した。

■ 構想の実施に伴う大学の国際化の状況、情報の公開、成果の普及

本プログラムのWebサイト・SNSにて、参加学生のレポートやイベントの様子を迅速に掲載し、新しい情報を公開した。
本年度の成果報告書の作成、翌年度の履修手引き、ニュースレターの作成を行った。



(RJE3総括シンポジウム)

■ 特記すべき事項等

- ・本教育プログラムを修了し、一定の基準を満たしたロシア側学生9名に対し、共同修了証が授与された。
- ・RJE3プログラム修了者から日露双方で大学教職員(7名)や日露交流に関わる人材(10名)が輩出された。
- ・総括シンポジウムでロシア側修了生よりRJE3プログラム同窓会について提案があり、平成31年3月に同窓会発足、ホームページを開設した。